

平成23年度 テーマ研修

1 研究主題

確かな学力を身につけさせるための学習指導を目指して
～資料活用力を高める社会科の授業展開の在り方～

2 主題設定の理由

(1) 社会の現状から

現代の社会は情報化、国際化、価値観の多様化により、社会の在り方は激しく変化し、複雑化してきている。そのため社会は多くの問題を抱えるようになった。少子高齢化問題、環境問題、人権に関する問題など、今日においても解決すべき問題が山積している。よりよい社会を築いていくためには、問題を解決するために、多面的に考え、公正に判断する力を育成することが重要である。

学習指導要領の小学校社会科の目標は「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。」である。

公民的資質の基礎とは「国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者としての行動する上で必要な資質を意味しており、自覚をもち、自他の人格を互いに尊重し合うこと、社会的義務や責任を果たそうとすること、社会生活の様々な場面で多面的に考えたり、公正に判断したりすることなどの態度や能力」である。

将来の社会を担う児童には、社会の変化に対応し、主体的に行動していけるように、社会的事象の理解のみにとどまらず、社会のことを多面的に考えたり、公正に判断したりする力を子どもたちに身に付けさせるようにしたい。

(2) 学校の教育目標、社会科の研究目標から

本校の学校教育目標に「意欲的に取り組み、表現力豊で主体的に学ぶ子どもを育てる」がある。この教育目標を踏まえ、社会科の研究目標も「子ども一人一人が課題意識を持ち、生き生きと学習できる社会科授業の工夫」を掲げ、学習意欲の向上や重要語句・社会事象の理解、資料活用力の育成を課題として授業を展開し、児童に力をつけたいと考えている。

(3) これまでの研究から

昨年までの研修は、ICT機器の基本操作の仕方や教科を問わずにICT機器を授業で活用する方法、効果的に使用するための環境整備等実践的な研修を行ってきた。教師側のICT機器操作も定着してきており、授業の中で利用される場面も多くなってきた。

今年度は、「ICT活用（基本操作・授業での活用方法・実践例・効果的に使用するための環境整備）」から発展し、社会科に教科を絞りICTの利用を含めた資料活用力を高める指導法を研修していきたいと考えている。

(4) 児童の実態から

平成22年度に実施した第5学年基礎基本調査の結果から以下の様なことが分かった。

平成22年度 5年基礎基本調査結果（平成23年1月実施） 社会科

農業	79.4%	社会的な思考・判断	71.6%
水産業	61.4%	資料活用の技能・表現	78.9%
工業	82.4%	知識・理解	76.5%
運輸・貿易	72.2%		
県の様子	77.6%		

単元においては、水産業や運輸貿易の分野で落ち込みが見られるが、観点別に見ると、「社会的な思考・判断」が、少し落ち込んでいることがわかった。

また、平成23年度に実施したNRT標準学力検査の結果からは、資料活用に関する小問での通過率が低く、次の様な課題が見えてきた。

NRTの分析結果からの課題（現6年児童・中1生徒）

- ・ 複数の資料から必要な事柄を読み取り、答えを求めることができる。
- ・ 様々な資料の読み取りができる。
- ・ 地名、歴史上の出来事を覚える。

以上のような結果から、資料活用力に注目し、高める必要があると考えている。資料活用力が高まることで、正確に社会の事実を認識することができ、新たな疑問や課題の発見や、学習して得た成果を自分の生活や社会に活かそうとする態度等、社会的な思考・判断・表現へとつながっていくのではないかと考えられる。

また、資料活用力は、社会科のみに必要な力ではないため、資料活用力が高まれば他教科の学力向上にもつながるのではないかと期待できる。

3 研究主題について

(1) 社会科における確かな学力とは

- 社会的事象に関心を持って多面的・多角的に考察、公正に判断する能力や態度
- 社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得し、それらを活用する力や課題を探究する力
- 我が国の国土や歴史に対する愛情をはぐくみ、日本人としての自覚を持って国際社会で主体的に生きると共に、持続可能な社会の実現を目指すなど、公共的な事柄に自ら参加していく資質や能力

(2) 資料活用力とは（学習指導要領解説より）

- 第3学年、4学年では、地図（絵地図を含む）や各種の具体的資料を効果的に活用することができること

具体的には、

- ・ 資料から必要な情報を読み取る。
- ・ 資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえる。
- ・ 必要な資料を収集する。

- 第5学年では、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用できること

具体的には、

- ・資料から必要な情報を読み取る。
- ・資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえる。
- ・複数の資料を関連づけて読み取る。
- ・必要な資料を収集したり選択したりする。
- ・資料を整理したり再構成したりする。

- 第6学年では、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用することができること

具体的には、

- ・資料から必要な情報を的確に読み取る。
- ・資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえる。
- ・複数の資料を関連づけて読み取る。
- ・資料の特徴に応じて読み取る。
- ・必要な資料を収集・選択したり吟味したりする。
- ・資料を整理したり再構成したりする。

(3) 社会的な思考・判断とは (児童の実態から)

- 第3学年、4学年では、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力

- 第5学年では、社会的事象の意味について考える力

- 第6学年では、社会的事象の意味をより広い視野から考える力

社会的事象を調べるだけでなく、目に見えたことから社会的事象の意味など見えな
いことを考えたり判断したりする能力。

事実をもとに「なぜそうなのか」「それがどういう意味を持っているのか」、さらには「調べたことは自分の生活や国民生活とどのような関連があるのか」などについて考えること。

4 研究の仮説

【仮説1】

資料を効果的に活用することができれば、資料活用力が高まるだろう。

〔視点1〕 資料の見方や読み取り方を指導する場面の在り方

- ・ 統計資料、年表、地図、絵、写真など、どのように見て、どこに着目すべきかを考える時間の確保

〔視点2〕 効果的な資料活用の在り方

- ・ 情報を読み取る。
- ・ 全体的な傾向をとらえる
- ・ 関連づけて読み取る
- ・ 特徴に応じて読み取る

【仮説 2】

学習過程や学習活動を工夫・改善し、指導の在り方を明らかにしていけば、確かな学力につながるだろう。

〔視点 3〕 問題解決的な学習の在り方

- ・ 児童一人ひとりが自らの問題意識を持ち、学習問題に対して解決の見通しを立て、それに従って必要な情報を収集し、それらを活用・整理して問題を解決していく学習活動を構成すること
- ・ 事象提示、学習問題設定の在り方

6 研究の組織

(1) 研究推進委員会

研究の方向性、内容の具体化、研究日程、全体の調整、研究のまとめなどを行う
《メンバー》校長、教頭、教務主任、教育方法担当者、研修係、研修部員、各研究班長

(2) 研究班

① 理論研究班

資料活用力を高めるための指導の在り方。
(資料活用力を育成するための段階を踏まえた系統表の作成)
仮説の検証、視点の検証

② 授業班

1 小単元 1 サイクルの学習過程等、本校ではどのような学習過程で進めるか。
問題解決的な学習をすすめるためのポイント
研究授業の授業及びその他の実践における写真や児童の様子など記録

③ 資料班

資料を読み取るための児童用手引きの作成。
社会科の授業で使える資料の収集、使いやすい環境の整備。
研究授業で使用する資料の作成
資料活用力を高めるための実践資料の収集